

2021年公認会計士試験合格者向け特別号

Contents

- 一般財団法人 会計教育研修機構(JFAEL)情報…………… 2
- JFAEL組織…………… 3
- 《実務補習特集》…………… 4
 - 「公認会計士として生涯持ち続けるべきもの、それは職業的使命感」
～柳澤 義一 日本公認会計士協会 副会長～
 - 「令和3年公認会計士試験合格者に向けて」
～鶴田 光夫 日本公認会計士協会 常務理事～
 - 「実務補習所に入所される皆さんへ」
～後藤紳太郎 日本公認会計士協会 常務理事～
 - 「東京実務補習所に入所される皆さんへ」
～滝沢 勝己 東京実務補習所運営委員会 委員長～
 - 「東海実務補習所に入所される皆さんへ」
～小笠原修文 東海実務補習所運営委員会 委員長～
 - 「近畿実務補習所に入所される皆さんへ」
～中尾 志都 近畿実務補習所運営委員会 委員長～
 - 「九州実務補習所へ入所したあなたへ」
～加藤 太一 九州実務補習所運営委員会 委員長～

一般財団法人 会計教育研修機構 (JFAEL) 情報

(JFAELについて)

当法人は、日本公認会計士協会が中心となり、経済界、学界、関係各界の協力を得て、2009年7月に設立された会計に係る教育財団です。

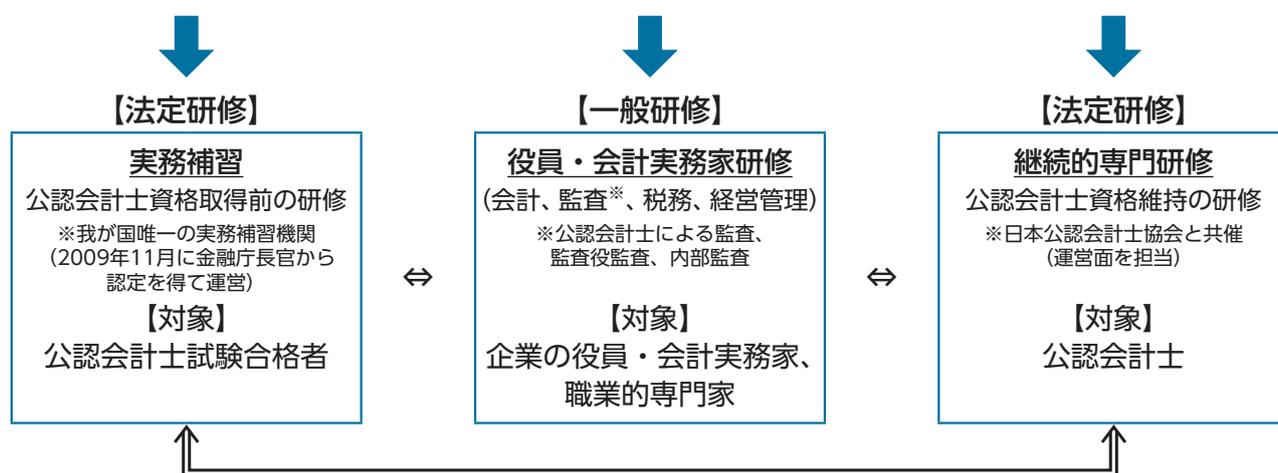
2018年3月に定款改正を行い、広く会計、監査及び税務に関心を有する者のニーズを踏まえた教育研修プログラムを提供し、専門知識や専門的技能の向上を実現し、我が国の会計人材の育成、会計リテラシーの向上に貢献することを目的としています。事業としては、会計実務に携わる者や取締役、監査役等の役員のための教育研修を行う「役員・会計実務家研修」と、公認会計士試験合格者のための法定研修を行う「実務補習」、公認会計士のための法定研修を行う「継続的専門研修」という3つの事業を行っています。

また、IFRSの任意適用企業が増加しつつある中、2013年11月にIFRS教育・研修委員会を設置し、関係諸団体の協力を得て、今後の我が国におけるIFRS教育・研修のあり方を検討し、関係者に働きかけを行うとともに、当法人としての取組みを推進しています。

このように、当法人は、関係者の協力のもと、オール・ジャパンとしての会計教育財団を目指して教育研修の機会を提供しています。

【目的】

会計、監査及び税務に関心を有する者の専門知識、専門的技能の向上を実現し、我が国の会計人材の育成、会計リテラシーの向上に貢献

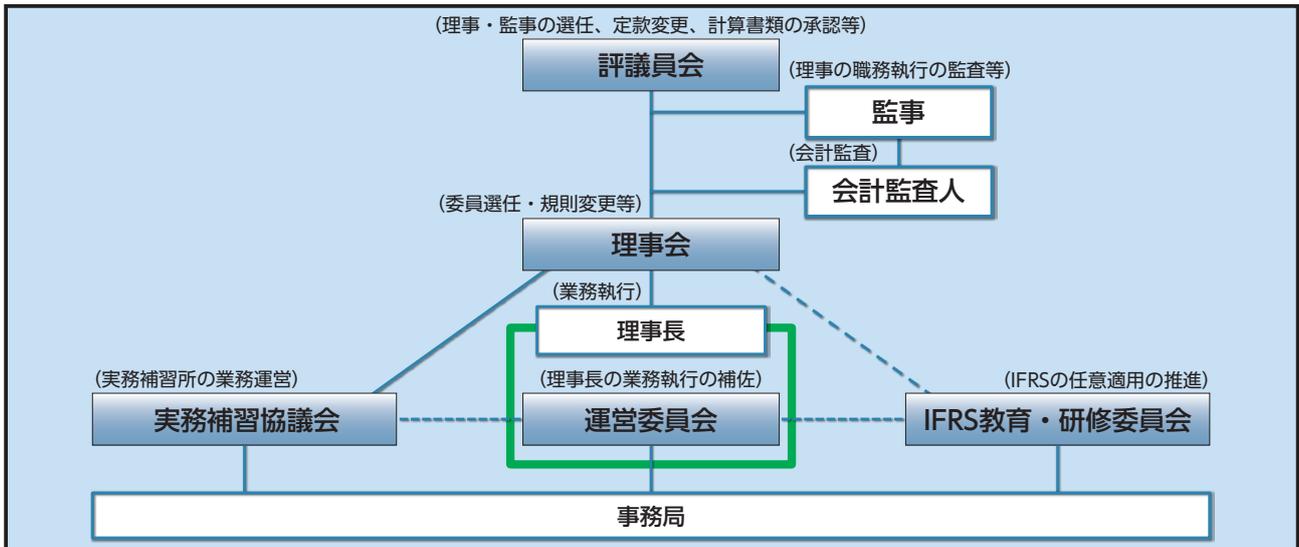


(事業)

	実務補習	役員・会計実務家研修	継続的専門研修(CPE)
開催目的	公認会計士試験合格者の資質向上	会計、監査、税務、経営管理の知識向上	公認会計士としての資質の維持向上
開催場所	東京(含む8支所)、東海 近畿、九州	東京、名古屋、大阪、 福岡、札幌など	全国の約30カ所の会場

JFAEL組織

(組織)



(評議員・理事・監事)

[2021年11月11日現在]

評議員会			
(議長)		梶川 融	太陽有限責任監査法人 代表社員 会長
森 公高	日本公認会計士協会 相談役	片倉 正美	EY新日本有限責任監査法人 理事長
(評議員)		北山 久恵	日本公認会計士協会 副会長、近畿会会長
清田 瞭	株式会社日本取引所グループ 取締役兼代表執行役グループCEO	國井 泰成	有限責任監査法人トーマツ 包括代表
重松 博之	会計検査院 元院長	小池 広靖	公益社団法人日本証券アナリスト協会 会長
島崎 憲明	IFRS財団アジア・オセアニアオフィス シニアアドバイザー	古藤 智弘	三優監査法人 理事長パートナー
西川 郁生	慶應義塾大学大学院 客員教授	後藤 敏文	公益社団法人日本監査役協会 前会長
林田 英治	公益財団法人財務会計基準機構 理事長	小西 範幸	会計大学院協会 相談役
坂東眞理子	学校法人昭和女子大学 理事長	佐藤 久史	日本公認会計士協会 専務理事
		佐山 正則	東陽監査法人 理事長
		辻 松雄	一般社団法人全国銀行協会 常務理事
		野崎 邦夫	住友化学株式会社 監査役
		増田 宏一	日本公認会計士協会 相談役
		南 成人	仰星監査法人 理事長
		森 俊哉	有限責任あずさ監査法人 理事長
		柳澤 義一	日本公認会計士協会 副会長
		若山 聡満	PwC京都監査法人 パートナー 東京オフィス責任者
			監事
		青木 茂男	茨城キリスト教大学 名誉教授
		山浦 久司	明治大学 名誉教授

(運営委員／IFRS教育・研修委員／実務補習協議会委員)

運営委員会			
(委員長)		貝増 眞	公益社団法人日本証券アナリスト協会 職業倫理教育企画部長
佐藤 久史	日本公認会計士協会 専務理事	加藤 寛	住友商事株式会社 主計部部長代理 アカウントングリサーチチームリーダー
(委員)		兼山 嘉人	日本公認会計士協会 常務理事(CPE担当)
青 克美	株式会社東京証券取引所 執行役員	川西 安喜	企業会計基準委員会 副委員長
新井 武広	弊財団専務理事	鈴木 陽	一般社団法人日本経済団体連合会 経済基盤本部 席主幹
小畑 良晴	一般社団法人日本経済団体連合会 経済基盤本部長	橋本 尚	青山学院大学大学院 教授
杉本 徳栄	関西学院大学大学院 教授	林 謙太郎	株式会社東京証券取引所 上場部長
柳澤 義一	日本公認会計士協会 副会長	藤本 貴子	日本公認会計士協会 常務理事
		湯浅 一生	富士通株式会社 執行役員常務
			実務補習協議会
(委員長)		手塚 正彦	弊財団理事長
小倉加奈子	日本公認会計士協会 副会長	鶴田 光夫	実務補習責任者
(委員)			各実務補習所所長、各実務補習所の委員長、弊財団専務理事等 計12名
新井 武広	弊財団専務理事		
岩間 芳仁	公益財団法人財務会計基準機構 代表理事常務		

「公認会計士として生涯持ち続けるべきもの、 それは職業的使命感」

日本公認会計士協会 副会長(後進育成担当)
一般財団法人会計教育研修機構 理事
東京実務補習所 所長

柳澤 義一



公認会計士の使命(公認会計士法 第1条)

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

これは公認会計士法 第1条の公認会計士の使命条項です。

だれが何のために皆さんに国家試験である公認会計士試験の受験の機会を与え、そしてその合格者に対して実務補習所というものを提供し、会計・監査のプロを養おうとしているのか、考えてみてほしいと思います。

それは、皆さんに一生の生活の糧を与えるためでも、公認会計士という肩書を与えて何かかっこいいビジネスを成功させて一儲けしてもらおうなどということでもありません。皆さんは我が国の国民経済の健全な発展に寄与するために今ここにいるのです。

まずもって、そのことをはっきりと自覚してください。そのうえで、公認会計士試験合格おめでとうございます。そしてわが業界に、実務補習所に、ようこそ。心より歓迎いたします。

公認会計士という資格は一身専属の資格であり、生涯、自身のみ資格として続きます。人生100年時代、皆さんは生涯、公認会計士です。そして生涯、持ち続けなくてはならないのが職業的使命感です。

日本公認会計士協会の元会長である川北博先生は、その著書「新潮流 監査人の独立性」(同文館出版)において下記の言葉を述べています。

「監査人の独立性に関していえば、大きな不祥事等の生起のたびに法令等の基準(ルール)が整

備強化されるということは、当然に義務論ルール思考の先行を意味している。しかし、目的論思考がこれに追随しなければ、どんなにルールを整備しても企業の不正や監査の失敗、特に監査人の独立性の欠落を予防することはできない。義務論的思考と目的論的思考は、その双方のバランスが必要で、いずれかにぶれることは本来避けなければならないのである。」

青山学院大学大学院の町田祥弘教授がその編著「わが国監査規制の新潮流」において注釈されていますが、ここに出てくる義務論ルール思考(義務論的思考)とは、「ルールに基づく義務を果たせば監査人の社会的責任は完結される」という考え方であり、一方、目的論的思考とは、「監査人のpublic interestに対する奉仕」を目指す考え方です。

さらに川北先生のことばは、次のように結ばれています。「職業倫理として普遍性のある考え方を整理し、職業専門家を教育することはすこぶる重要である。監査人に対する一般的な教育とともに監査人の入門教育では、特に職業倫理教育が重視されなければならない。職業倫理教育こそが具体的な不祥事予防のための実行可能な施策としてプロフェッションに重視されなければならないことをあらためて強調してむすびとする。」

職業倫理とは、私は職業的使命感にいきつくと思っています。職業的使命感とは何か、何のために我々はいるのか、その解はそれぞれがこれから常に考え求めていると欲しいと思います。私が実務補習所に入所したのは、40年以上前の昭和56年です。そのときの日本公認会計士協会の会長が川北博先生でした。補習生時代に職業的使命感の大切さの教えを頂き、今もその教えが私の心の中で生きています。

「令和3年公認会計士試験

合格者に向けて」

一般財団法人会計教育研修機構 実務補習責任者
日本公認会計士協会 常務理事(後進育成担当)

鶴田 光夫



公認会計士試験合格、おめでとうございます。皆さんは、会計職業専門家としての第一歩(スタート)を切ることにになりました。これから公認会計士となるために、実務経験に加えて実務補習の修了が必要となります。

実務補習のミッション(存在意義)は、試験合格者が「会計職業専門家としてふさわしい品位と幅広い識見を備え、専門的知識を実務上で応用できる能力を有する公認会計士」としてキャリアを歩み、グローバル時代の社会に貢献していくために必要な基礎を身に付けるための補習教育を提供していくことです。そして、実務補習の修了までに身に付けるべき必要な基礎とは、具体的に以下の通りです。

- 1) 社会に貢献する会計職業専門家としての価値観、倫理及び姿勢
- 2) 会計職業専門家に必要な専門的知識、実務能力、応用力とその学び方
- 3) 会計・税務・監査を一体不可分のものとして捉える能力
- 4) 会計職業専門家に必要なコミュニケーション能力
- 5) 公認会計士が活躍し社会に貢献する分野の理解

- 6) 会計職業専門家に必要なネットワーク力(人的ネットワークを構築し活用する能力)

これらの必要な基礎を修得するために、まずは所属する組織において主体的かつ積極的に実務経験を積み、さらに、実務補習を最大限活用することによって、会計職業専門家としての確かな土台作りをしてもらいたいと思っています。

また、実務補習では、講義(オンラインを含む)や実地演習(ゼミナール及びディスカッション)を通して、単なる知識や技能の修得だけでなく、実務補習の同期、運営委員・講師の先輩会計士とのつながりといった、所属組織の枠を超えた人的ネットワークを持つことができます。これは、自分もそうでしたが、将来の貴重な財産となるでしょう。

皆さんが、変化の激しい時代において、この実務補習を通して会計職業専門家としての基礎(専門知識、価値観・倫理・姿勢、スキル)を身に付け、変化即応能力・学び続ける姿勢(自身に必要な知力や能力を見極め、研鑽を続ける資質・能力)をもって、公認会計士として社会に貢献されることを心から願っています。

「実務補習所に入所される皆さんへ」

日本公認会計士協会 常務理事(後進育成担当)

後藤 紳太郎



公認会計士試験合格おめでとうございます。

皆さんは、公認会計士試験に合格するため様々な努力を重ねて来られたと思います。今年の試験は、新型コロナウイルス感染拡大下の試験でさまざまな不安の中での受験だったと思います。皆さんの努力が報われたこと、心よりお喜び申し上げます。

皆さんは、公認会計士というプロフェッショナルの入り口に立っています。次の目標は、修了考査に合格し公認会計士の資格を取得することだと思いますが、皆さんは公認会計士の資格を取得する目的についてどのように考えておられますか。資格を取得することで、より安定した人生を進めると考えて資格取得をしようと思った人もいますが、私は皆さんには、プロフェッショナルとして厳しいけれども豊かでより価値のある人生を歩むことを目的としていただきたいと考えます。

公認会計士は、監査だけでなくコンサルティング、税務、組織内会計士・社外役員など様々な領域で活躍しています。さらに公認会計士が行う業務は拡大をきていて、皆さんのチャレンジを待っています。

皆さんにとって実務補習期間はプロフェッショナルとしての基礎をつくる大切な期間です。実務補習所や勤務先等で様々な学習機会が提供されます。それらを生かしてプロフェッショナルとしてのしっかりとした基礎を築くことが、様々な領域で活躍をする上で、多様性と優位性をもたらしてくれると考えます。

皆さんのプロフェッショナルとしての人生にとって何のための実務補習であるかをよく考えて、目的・目標をしっかりと見極め、この期間に学ぶべきことを学び、経験すべきことを経験し、プロフェッショナルとしての基礎をしっかりと固められることを望みます。

「東京実務補習所に 入所される皆さんへ」

東京実務補習所運営委員会 委員長

滝沢 勝己



公認会計士試験の合格おめでとうございます。令和3年公認会計士試験は、引き続きの新型コロナウイルス感染拡大防止の取組みにより、試験勉強の仲間や友人などと過ごす時間や方法も限られ、体調管理の心配も多かったものと思います。そのような環境下で、しっかりとご自身の目標に向かって努力され、「合格」という成果に結びつけられたことは、実務補習の運営に携わる一員として大変うれしく、また、心強く感じています。

実務補習においては、皆さんが「会計職業専門家としてふさわしい品位と幅広い見識を備え、専門的知識を実務上で応用できる能力を有する公認会計士」としてキャリアを歩み、グローバル時代の社会に貢献していくため、数多くの様々なカリキュラムを提供します。

東京実務補習所では、各分野の専門家の講師だけでなく、皆さんの先輩となる100名近くの運営委員が実

務補習生20名程度の「班」に2名担当され、専門的な指導だけでなく、将来のキャリア相談などにも幅広く相談に応じてくれます。

また、昨年度に、東京実務補習所では実務補習生へのアンケートを実施し、多くの回答もいただきましたが、何より実務補習生の近くで指導してくれた運営委員への心温まる感謝のメッセージも数多く寄せられ、入所後に皆さんを担当する運営委員もより一層、皆さんへのサポートに力が入っていくものと感じています。

これから皆さんは、公認会計士としての社会的使命を果たしていくための基礎を実務補習で学んでいくこととなります。公認会計士試験の合格を機に、皆さん一人ひとりがご自身の将来のための貴重な機会と捉え、改めてご自身の「目標」を考える良い機会とし、何か心配や迷いがある際には、是非、皆さんの運営委員に相談してみてください。

「東海実務補習所に 入所される皆さんへ」

東海実務補習所運営委員会 委員長

小笠原 修文



公認会計士試験合格、おめでとうございます。新型コロナウイルス感染拡大という逆境に心折れることなく、見事に志を貫徹した皆さんの頑張りに敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

実務補習所は、皆さんが公認会計士として社会で活躍できる存在になるために、皆さんの成長をサポートしていく場です。私たちは公認会計士の先輩として、情熱をもって皆さんを指導していきたいと思っています。

東海実務補習所は、東海四県に所属する補習生が通う補習所です。同期が70名程度であるため、同じ教室で一同に集まって講義を受講できる環境にあり、自然と団結力の強い補習所となっています。皆さんには以下の3つの事を心掛けて頂きたいと思っています。

①講義に出席し続けること

講義に出席する事は当たり前のことですが、実際に仕事しながら講義を受講し続けることは想像以上に大変だと感じるかもしれません。是非、初心を忘れずに頑

張って3年間の講義に出席し続けて下さい。

②積極的な参加意識を持つこと

補習所のカリキュラムは大変充実しており、皆さんは単位取得のために多くの時間を費やすこととなります。決して受け身にならず、積極的な参加意識を持って一つでも多くの事を学ぶ貪欲な気持ちで臨んで下さい。

③かけがえのない仲間を作ること

補習所の活動を通して、同期や先輩会計士と交流する機会が沢山あります。この出会いを大切に、これからの会計士人生の中でかけがえのない仲間を作ってください。

最後に、実務補習所は講師の方々だけでなく、補習所運営に携わる沢山のスタッフの方々にも支えられています。是非、皆さんの成長をサポートして下さる方々への感謝の気持ちを大切にして実務補習に臨んでください。どうぞ宜しくお願いします。

「近畿実務補習所に 入所される皆さんへ」

近畿実務補習所運営委員会 委員長

中尾 志都



公認会計士試験合格、おめでとうございます。日々の努力の結果、新たなステージに立たれた今、未来への期待と意気込みで胸を膨らませていることでしょう。皆さんを歴史ある近畿実務補習所の67期生としてお迎えすることを本当に嬉しく思います。

補習所では、実務に即した知識と心構えを習得していただくためのカリキュラムを準備しています。コロナの影響により対面型の講義や宿泊研修が一部制限されていますが、eラーニング講義やオンラインディスカッション等を利用し、補習所での学びが充実したものになるよう努めて参ります。皆さんには、どの様な状況下でも必ず志は達成されると信じて、補習所での勉学に励んでもらいたいと思います。そして、ぜひ習得してもらいたいことが3つあります。

1つ目は、プロフェッショナルとしての知識と判断力です。監査や会計を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中、私たち公認会計士に求められているのは、継続

的な研鑽を通じて正確な知識を習得し適切な判断を下すことです。補習所で学んだことを監査現場で実践し、また実践の場で得たものを自分の知見とすることによって適切な判断ができるよう鍛錬を重ねてください。

2つ目は、公認会計士である限り保持すべき高度な倫理観です。資本市場の信頼を守る番人として、適切な判断をするためにも高度な倫理観が必要です。時にはクライアントと対峙しなければならないこともありますが、怯むことなく正しい道に向かう強さを身に付けてください。

3つ目は、信頼できる仲間です。同期や講師の先生方と積極的に意見を交わし、様々な経験を共有してください。楽しく、お互いに切磋琢磨しながら成長していただきたいと思います。

補習所での学びが皆さんにとって有意義なものになるように、サポートして参りますので、よろしくお願い致します。

「九州実務補習所へ入所したあなたへ」

九州実務補習所運営委員会 委員長

加藤 太一



入所おめでとうございます。私は九州実務補習所の1期生で、当時を振り返ると右も左も分からない状態だったのを思い出します。同時に、可能性も無限大だったと今になって実感します。

同様に無限の可能性を秘めたあなたが、これから充実した会計士人生を送るために大切と思うことを入所にあたってお伝えします。

国家試験に合格したとはいえ、すぐに実務が出来るものではありません。現場に出ると自分の無力さを痛感することもあるでしょう。まずは、仕事を覚える必要があります。

私は「二十代は時間で稼げ、三十代は知識で稼げ、四十代は知恵で稼げ、五十代は人格で稼げ」という言葉を心に刻んでいます。駆け出しの頃はとにかく時間を投入することで、様々な経験を重ねて仕事を覚えていくものです。また、仕事のできる先輩や上司と一緒に仕事をやる時間を多く持ち、その中から、仕事に向き合う姿勢や自分の専門性を磨く日々の心掛けなどを学ぶことも大切です。

このような下積みを経験が成長するためには必要だと思いますが、昨今は「働き方改革」という名のもとに、労働時間に規制がかかっています。もちろん、無駄を省

いたり、見直しを図ったりして能率や効率を高めることは必要ですが、仕事に投入する時間が減ると、なかなか力はつかないと思うのです。

とはいえこの流れには逆れません。働き方改革の中でどのように力をつけていくか、自分を成長させるための時間の使い方が問われています。

ではどのように時間を使えばよいのか。自分一人ではなかなか道が見えないかもしれません。そこで、実務補習所を活用してください。実務補習所の最大の魅力は、公認会計士の先輩や同期生と交流できる点です。インターネットや書籍では得られない、リアルな体験談や考え方、あり方を学べる点です。あなたの疑問や悩みは、先輩が既にも乗り越えてきたことかもしれません。また、同期生との情報交換は楽しくもあり、刺激になることもたくさんあるでしょう。実務補習所で学び、気付きを得ることで、自分を成長させるための道を見つけ、あなたの無限の可能性が開花することを願っています。

直接の対面はもちろん、eラーニングの画面の向こうから、また教材作成等見えないところからも、大勢の人間であなたの成長をバックアップします。

ではこれから、よろしくお願い致します。



～会計教育財団として、我が国の会計人材の育成・会計リテラシーの向上を目指す～



JFAELニュースレター -特別号-

2021年11月発行

発行人 手塚 正彦

発行 一般財団法人会計教育研修機構 (JFAEL)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-7

大手町フィナンシャルシティ サウスタワー5F

Tel : 03-3510-7860 Fax : 03-3510-7866

WEB : <http://www.jfael.or.jp/>

